

平成 25 年度 大分大学 2 次試験前期日程 (数学問題)

工・経済・教育福祉・医学部 平成 25 年 2 月 25 日

- 工学部は, [1] ~ [4] 数 I・II・III・A・B・C (100 分)
- 経済学部は, [1] ~ [3], [6] 数 I・II・A・B (100 分)
- 教育福祉科学部は, [2], [3], [5] 数 I・II・A・B (80 分)
- 医学部は, [7] ~ [9] 数 I・II・III・A・B・C (80 分)

[1] n を 9 以上の自然数とする. 袋の中に n 個の球が入っている. このうち 6 個は赤球で残りは白球である. この袋から 6 個の球を同時に取り出すとき, 3 個が赤球である確率を P_n とする.

- (1) P_{10} を求めなさい.
- (2) $\frac{P_{n+1}}{P_n}$ を求めなさい.
- (3) P_n が最大となる n を求めなさい.

[2] 連立不等式 $\begin{cases} y \geq |2x - 3| \\ y \leq x \end{cases}$ の表す領域を D とする.

- (1) 領域 D を図示しなさい.
- (2) a を 2 でない正の定数とする. 点 (x, y) が領域 D 内を動くとき, $ax + y$ の最大値と最小値, およびそのときの点 (x, y) を求めなさい.
- (3) 点 (x, y) が領域 D 内を動くとき, $x^2 + y^2$ の最小値とそのときの点 (x, y) を求めなさい.

[3] $\triangle OAB$ において, $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$, $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$, $|\vec{a}| = \sqrt{3}$, $|\vec{b}| = \sqrt{2}$, $\vec{a} \cdot \vec{b} = t$ とする. 点 A から直線 OB に垂線 AP を下ろし, 点 B から直線 OA に垂線 BQ を下ろし, 直線 AP と直線 BQ の交点を R とする.

- (1) t の範囲を求めなさい.
- (2) \overrightarrow{OP} を t と \vec{b} で, \overrightarrow{OQ} を t と \vec{a} で表しなさい.
- (3) $t = 1$ のとき, \overrightarrow{OR} を \vec{a} と \vec{b} で表し, $|\overrightarrow{OR}|$ を求めなさい.

4 $f(x) = \log 2x$ とし, 曲線 $y = f(x)$ を C とする. 曲線 C と x 軸との交点における曲線 C の接線 l の方程式を $y = g(x)$ とする.

- (1) 直線 l の方程式を求めなさい.
- (2) $h(x) = g(x) - f(x)$ ($x > 0$) とおくと, $h(x) \geq 0$ ($x > 0$) であることを示しなさい. また, $h(x) = 0$ となる x の値を求めなさい.
- (3) 曲線 C と直線 l と直線 $x = \frac{1}{2}e$ で囲まれた部分の面積 S を求めなさい.

5 a を実数とする. 直線 $y = 3x - a$ を l とし, 曲線 $y = 2x^3 - 3x$ を C とする.

- (1) $a = 0$ のとき, 直線 l と曲線 C の共有点の座標を求めなさい.
- (2) 直線 l と曲線 C の共有点の個数が 3 個となるように a の範囲を求めなさい.

6 a, b, c, k を実数とし, $k > 0$ とする. 2 次関数 $f(x) = ax^2 + bx + c$ は $f(0) = 9$, $f(-1) = 16$ をみたす. また, 関数 $f(x)$ について, x に関する恒等式

$$f'(x) = 6x - 9k - 4 + \int_0^k f(t) dt$$

が成り立つ. ただし, $f'(x)$ は $f(x)$ の導関数とする.

- (1) $f(x)$ を求めなさい.
- (2) k の値を求めなさい.

7 次の問いに答えよ.

- (1) 次の x と y に関する連立方程式を解け. ただし, a と b は実数の定数とする.

$$\begin{cases} ax + y = 1 \\ x + by = 1 \end{cases}$$

- (2) $\cos x \geq 1 - \frac{x^2}{2}$ ($0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$) を証明せよ.

- (3) 不定積分 $\int e^{ax} \sin bx dx$ を求めよ. ただし, a と b は実数の定数とする.

8 数列 $\{x_n\}$, $\{y_n\}$, $\{z_n\}$ の間に次の漸化式が成立する .

$$x_{n+1} = 2x_n, y_{n+1} = 3x_n + y_n, z_{n+1} = x_n - 2y_n + 3z_n \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

このとき , 次の問いに答えよ .

- (1) 初項 $(x_1, y_1) = (2, 0)$ に対して , 一般項 x_n と y_n を求めよ .
- (2) 数列 $\{a_n\}$ が定数 c, d, r, s に対して , 関係 $a_{n+1} = ra_n + cs^n + d$ で定義されるとき , $f_n = ps^n + q$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) が次式を満たすように定数 p と q を求めよ . ただし , $r \neq s, r \neq 0, 1, s \neq 0, 1$ とする .

$$a_{n+1} + f_{n+1} = r(a_n + f_n) \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

- (3) 初項 $(x_1, y_1, z_1) = (2, 0, 0)$ に対して , 一般項 z_n を求めよ .

9 曲線 $y = x^2$ の上を動く点 $P(x, y)$ がある . この動点の速度ベクトルの大きさが一定 C のとき , 次の問いに答えよ . ただし , 動点 $P(x, y)$ は時刻 t に対して x が増加するように動くとする .

- (1) $P(x, y)$ の速度ベクトル $\vec{v} = \left(\frac{dx}{dt}, \frac{dy}{dt} \right)$ を x で表せ .
- (2) $P(x, y)$ の加速度ベクトル $\vec{\alpha} = \left(\frac{d^2x}{dt^2}, \frac{d^2y}{dt^2} \right)$ を x で表せ .
- (3) 半径 r の円 , $x^2 + (y - r)^2 = r^2$ 上を速度ベクトルの大きさが一定 C で動く点 Q があるとき , この加速度ベクトルの大きさを求めよ .
- (4) 動点 P と Q の原点 $(0, 0)$ での加速度ベクトルの大きさが等しくなるときの半径 r を求めよ .

正解

$$\boxed{1} \quad (1) \quad P_{10} = \frac{{}_6C_3 \times {}_4C_3}{{}_{10}C_6} = \frac{20 \times 4}{210} = \frac{8}{21}$$

$$(2) \quad P_n = \frac{{}_6C_3 \times {}_{n-6}C_3}{{}_n C_6}, \quad P_{n+1} = \frac{{}_6C_3 \times {}_{n-5}C_3}{{}_{n+1}C_6} \quad \text{より}$$

$$\begin{aligned} \frac{P_{n+1}}{P_n} &= \frac{{}_6C_3 \times {}_{n-5}C_3}{{}_{n+1}C_6} \times \frac{{}_n C_6}{{}_6C_3 \times {}_{n-6}C_3} \\ &= \frac{{}_{n-5}C_3}{{}_{n-6}C_3} \times \frac{{}_n C_6}{{}_{n+1}C_6} \\ &= \frac{n-5}{n-8} \times \frac{n-5}{n+1} = \frac{(n-5)^2}{(n+1)(n-8)} \end{aligned}$$

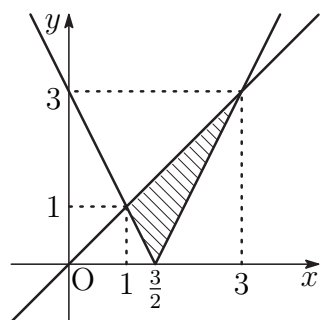
(3) (2) の結果から

$$\frac{P_{n+1}}{P_n} - 1 = \frac{(n-5)^2}{(n+1)(n-8)} - 1 = \frac{3(11-n)}{(n+1)(n-8)}$$

したがって $P_9 < P_{10} < P_{11} = P_{12} > P_{13} > P_{14} > \dots$

よって, P_n が最大となる n の値は $n = 11, 12$

- 2 (1) D の表す領域は図の斜線部分で、境界を含む。



- (2) $f(x, y) = ax + y$ とおく。 (1) の結果から、 D における $f(x, y)$ の最大値と最小値は、次の3つの値

$$f(1, 1) = a + 1, \quad f\left(\frac{3}{2}, 0\right) = \frac{3}{2}a, \quad f(3, 3) = 3a + 3$$

の中から選べばよいので (a は 2 でない正の定数)

$$f\left(\frac{3}{2}, 0\right) - f(1, 1) = \frac{1}{2}(a - 2)$$

$$f(3, 3) - f\left(\frac{3}{2}, 0\right) = \frac{3}{2}a + 3 > 0$$

$$f(3, 3) - f(1, 1) = 2a + 2 > 0$$

よって 点 $(3, 3)$ で最大値 $3a + 3$

$0 < a < 2$ のとき点 $\left(\frac{3}{2}, 0\right)$ で最小値 $\frac{3}{2}a$

$2 < a$ のとき点 $(1, 1)$ で最小値 $a + 1$

- (3) D において $x^2 + y^2$ の最小値を与える点 (x, y) は、2点 $(1, 1)$ 、 $\left(\frac{3}{2}, 0\right)$ を結ぶ線分上にあるから、この点を $(t, -2t + 3)$ とおくと $\left(1 \leq t \leq \frac{3}{2}\right)$

$$\begin{aligned} x^2 + y^2 &= t^2 + (-2t + 3)^2 \\ &= 5t^2 - 12t + 9 \\ &= 5\left(t - \frac{6}{5}\right)^2 + \frac{9}{5} \end{aligned}$$

よって $t = \frac{6}{5}$ すなわち 点 $\left(\frac{6}{5}, \frac{3}{5}\right)$ で最小値 $\frac{9}{5}$ をとる。

3 (1) \vec{a} と \vec{b} のなす角を θ とすると

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}| |\vec{b}| \cos \theta = \sqrt{3} \sqrt{2} \cos \theta \quad \text{ゆえに} \quad t = \sqrt{6} \cos \theta$$

$$-1 < \cos \theta < 1 \text{ であるから} \quad -\sqrt{6} < t < \sqrt{6}$$

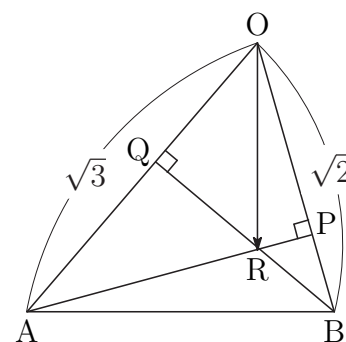
(2) $\vec{OP} = k\vec{b}$ とおくと $\vec{AP} = k\vec{b} - \vec{a}$

$\vec{AP} \perp \vec{b}$ であるから

$$(k\vec{b} - \vec{a}) \cdot \vec{b} = 0$$

$$k|\vec{b}|^2 - \vec{a} \cdot \vec{b} = 0$$

$$\text{ゆえに} \quad k = \frac{\vec{a} \cdot \vec{b}}{|\vec{b}|^2} = \frac{t}{2} \quad \text{よって} \quad \vec{OP} = \frac{t}{2} \vec{b}$$



$$\text{同様に, } \vec{OQ} = k'\vec{a} \text{ とおくと} \quad k' = \frac{\vec{a} \cdot \vec{b}}{|\vec{a}|^2} = \frac{t}{3} \quad \text{よって} \quad \vec{OQ} = \frac{t}{3} \vec{a}$$

$$\text{補足} \quad \vec{OP} = \frac{(\vec{OA} \cdot \vec{OB})}{|\vec{OB}|^2} \vec{OB} = \frac{t}{2} \vec{b}, \quad \vec{OQ} = \frac{(\vec{OA} \cdot \vec{OB})}{|\vec{OA}|^2} \vec{OA} = \frac{t}{3} \vec{a}$$

(3) $t = 1$ のとき, (2) の結果から $\vec{OP} = \frac{1}{2} \vec{b}$, $\vec{OQ} = \frac{1}{3} \vec{a}$

R は直線 AP 上の点であるから, 実数 s を用いて

$$\vec{OR} = (1-s)\vec{OA} + s\vec{OP} = (1-s)\vec{a} + \frac{s}{2} \vec{b} \quad \dots \textcircled{1}$$

$\vec{a} = 3\vec{OQ}$, $\vec{b} = \vec{OB}$ であるから, 上式より

$$\vec{OR} = 3(1-s)\vec{OQ} + \frac{s}{2} \vec{OB}$$

また, R は直線 QB 上の点でもあるから

$$3(1-s) + \frac{s}{2} = 1 \quad \text{ゆえに} \quad s = \frac{4}{5}$$

$$\text{これを} \textcircled{1} \text{ に代入して} \quad \vec{OR} = \frac{1}{5} \vec{a} + \frac{2}{5} \vec{b}$$

$$\begin{aligned} \text{また} \quad |\vec{OR}| &= \frac{1}{5} |\vec{a} + 2\vec{b}| = \frac{1}{5} \sqrt{|\vec{a}|^2 + 4\vec{a} \cdot \vec{b} + 4|\vec{b}|^2} \\ &= \frac{1}{5} \sqrt{3 + 4 \cdot 1 + 4 \cdot 2} = \frac{\sqrt{15}}{5} \end{aligned}$$

4 (1) x 軸との交点の x 座標は $\left(\frac{1}{2}, 0\right)$

$$f(x) = \log 2x \text{ より } f'(x) = \frac{1}{x}, f'\left(\frac{1}{2}\right) = 2$$

$$\text{直線 } l \text{ の方程式は } y = 2\left(x - \frac{1}{2}\right) \text{ すなわち } y = 2x - 1$$

(2) (1) の結果から $g(x) = 2x - 1$ より

$$\begin{aligned} h(x) &= g(x) - f(x) \\ &= (2x - 1) - \log 2x \end{aligned}$$

x	(0)	...	$\frac{1}{2}$...
$h'(x)$		-	0	+
$h(x)$		\searrow	0	\nearrow

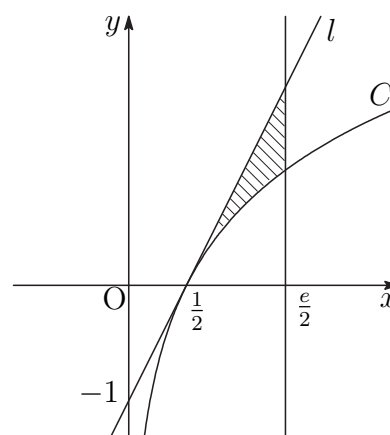
$$\text{ゆえに } h'(x) = 2 - \frac{1}{x} = \frac{2x - 1}{x}$$

$h(x)$ の増減は、右の表のようになり、 $h(x) \geq 0$ ($x > 0$) が成り立つ。

$$\text{また、} h(x) = 0 \text{ となる } x \text{ の値は } x = \frac{1}{2}$$

(3) S は、右の図の斜線部分の面積であるから

$$\begin{aligned} S &= \int_{\frac{1}{2}}^{\frac{e}{2}} (2x - 1 - \log 2x) dx \\ &= \left[x^2 - x \log 2x \right]_{\frac{1}{2}}^{\frac{e}{2}} \\ &= \frac{e^2 - 2e - 1}{4} \end{aligned}$$



5 (1) $a = 0$ より, 連立方程式 $\begin{cases} y = 3x \\ y = 2x^3 - 3x \end{cases}$ を解いて

$$(0, 0), (\sqrt{3}, 3\sqrt{3}), (-\sqrt{3}, -3\sqrt{3})$$

(2) $l: y = 3x - a$ と $C: y = 2x^3 - 3x$ の共有点の個数は, 方程式

$$-2x^3 + 6x = a$$

の実数解の個数に等しい.

関数 $y = -2x^3 + 6x$ について

$$\begin{aligned} y' &= -6x^2 + 6 \\ &= -6(x+1)(x-1) \end{aligned}$$

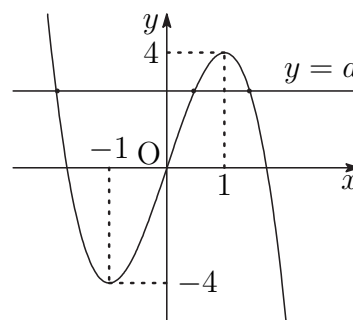
y の増減表は, 右のようになる.

よって, $y = -2x^3 + 6x$ のグラフは, 右の図のようになる.

求める a の値の範囲は, このグラフと直線 $y = a$ が異なる 3 個の共有点をもつ範囲であるから

$$-4 < a < 4$$

x	...	-1	...	1	...
y'	-	0	+	0	-
y	↘	極小 -4	↗	極大 4	↘



6 (1) $f(0) = 9$ より $c = 9$

$f'(x) = 2ax + b$ より, 恒等式の x の係数を比較して $a = 3$

したがって, $f(x) = 3x^2 + bx + 9$. これに $x = -1$ を代入すると

$$f(-1) = 3 - b + 9 = 16 \quad \text{ゆえに} \quad b = -4$$

よって $f(x) = 3x^2 - 4x + 9$

(2) (1) の結果から, $f'(x) = 6x - 4$. これと恒等式の定数項を比較して

$$-9k - 4 + \int_0^k (3t^2 - 4t + 9) dt = -4$$

$$-9k + \left[t^3 - 2t^2 + 9t \right]_0^k = 0$$

$$k^3 - 2k^2 = 0$$

$k > 0$ に注意してこれを解くと $k = 2$

7 (1) 連立方程式 $\begin{cases} ax + y = 1 \\ x + by = 1 \end{cases}$ から, y および x をそれぞれ消去すると

$$(ab - 1)x = b - 1, \quad (ab - 1)y = a - 1$$

i) $ab - 1 \neq 0$ のとき $x = \frac{b - 1}{ab - 1}, y = \frac{a - 1}{ab - 1}$

ii) $ab - 1 = 0$ のとき, $b = \frac{1}{a}$ より与えられた連立方程式は

$$\begin{cases} ax + y = 1 \\ x + \frac{1}{a}y = 1 \end{cases} \quad \text{すなわち} \quad \begin{cases} ax + y = 1 \\ ax + y = a \end{cases}$$

となる. したがって

$a \neq 1$ のとき 解なし

$a = 1$ のとき $x + y = 1$ である任意の x, y

$$\text{よって} \begin{cases} ab \neq 1 \text{ のとき} & x = \frac{b - 1}{ab - 1}, y = \frac{a - 1}{ab - 1} \\ ab = 1 \text{ かつ } a \neq 1 \text{ のとき} & \text{解なし} \\ a = b = 1 \text{ のとき} & x + y = 1 \text{ である任意の } x, y \end{cases}$$

(2) $0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$ において, $1 - \cos x \geq 0$ であるから

$$\int_0^x (1 - \cos t) dt \geq 0 \quad \text{ゆえに} \quad x - \sin x \geq 0$$

さらに $\int_0^x (t - \sin t) dt \geq 0$ ゆえに $\frac{x^2}{2} + \cos x - 1 \geq 0$

よって $\cos x \geq 1 - \frac{x^2}{2} \quad \left(0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}\right)$

$$(3) \quad \begin{aligned} (e^{ax} \sin bx)' &= ae^{ax} \sin bx + be^{ax} \cos bx \\ (e^{ax} \cos bx)' &= -be^{ax} \sin bx + ae^{ax} \cos bx \end{aligned}$$

上の2式から $(ae^{ax} \sin bx - be^{ax} \cos bx)' = (a^2 + b^2)e^{ax} \sin bx \quad \dots (*)$

i) $b = 0$ のとき $\int e^{ax} \sin bx \, dx = \int 0 \, dx = C$ (C は積分定数)

ii) $b \neq 0$ のとき, $a^2 + b^2 \neq 0$ であるから, $(*)$ より

$$\int e^{ax} \sin bx \, dx = \frac{e^{ax}}{a^2 + b^2} (a \sin bx - b \cos bx) + C \quad (C \text{ は積分定数})$$

補足 $(*)$ から $a^2 + b^2 \neq 0$ のとき

$$\int e^{ax} \sin bx \, dx = \frac{e^{ax}}{a^2 + b^2} (a \sin bx - b \cos bx) + C \quad (C \text{ は積分定数})$$

であるから, 次の解答もよい.

i) $a^2 + b^2 \neq 0$ すなわち $(a, b) \neq (0, 0)$ のとき

$$\int e^{ax} \sin bx \, dx = \frac{e^{ax}}{a^2 + b^2} (a \sin bx - b \cos bx) + C \quad (C \text{ は積分定数})$$

ii) $a^2 + b^2 = 0$ すなわち $(a, b) = (0, 0)$ のとき

$$\int e^{ax} \sin bx \, dx = \int 0 \, dx = C \quad (C \text{ は積分定数})$$

8 (1) $\{x_n\}$ は, 初項が2, 公比が2の等比数列であるから

$$x_n = 2 \cdot 2^{n-1} = 2^n$$

したがって, $y_{n+1} = 3x_n + y_n$ より $y_{n+1} - y_n = 3 \cdot 2^n$

$$\begin{aligned} n > 1 \text{ のとき} \quad \sum_{k=1}^{n-1} (y_{k+1} - y_k) &= \sum_{k=1}^{n-1} 3 \cdot 2^k \\ y_n - y_1 &= \frac{6(2^{n-1} - 1)}{2 - 1} \\ y_n &= 3 \cdot 2^n - 6 \end{aligned}$$

$n = 1$ のときも成り立つので $y_n = 3 \cdot 2^n - 6$

(2) $a_{n+1} = ra_n + cs^n + d$ より

$$a_{n+1} - ra_n = cs^n + d \quad \cdots \textcircled{1}$$

$a_{n+1} + f_{n+1} = r(a_n + f_n)$, $f_n = ps^n + q$ より

$$\begin{aligned} a_{n+1} - ra_n &= -f_{n+1} + rf_n \\ &= -(ps^{n+1} + q) + r(ps^n + q) \\ &= p(r-s)s^n + q(r-1) \quad \cdots \textcircled{2} \end{aligned}$$

$$\textcircled{1}, \textcircled{2} \text{ より } \quad cs^n + d = p(r-s)s^n + q(r-1)$$

これが n についての恒等式であるから

$$c = p(r-s), \quad d = q(r-1)$$

このとき, $r \neq s, r \neq 1$ より $p = \frac{c}{r-s}, q = \frac{d}{r-1}$

(3) $z_{n+1} = x_n - 2y_n + 3z_n$ に (1) の結果を代入すると

$$z_{n+1} = 2^n - 2(3 \cdot 2^n - 6) + 3z_n \quad \text{ゆえに} \quad z_{n+1} = 3z_n - 5 \cdot 2^n + 12$$

(2) の a_n に z_n を適用すると $r = 3, c = -5, s = 2, d = 12$

$$\text{また } p = \frac{-5}{3-2} = -5, q = \frac{12}{3-1} = 6 \quad \text{ゆえに} \quad f_n = -5 \cdot 2^n + 6 \quad \cdots \textcircled{3}$$

このとき, $z_{n+1} + f_{n+1} = 3(z_n + f_n)$ より

$$z_n + f_n = (z_1 + f_1) \cdot 3^{n-1} = (0 - 4) \cdot 3^{n-1} = -4 \cdot 3^{n-1} \quad \cdots \textcircled{4}$$

$$\textcircled{3}, \textcircled{4} \text{ より } \quad z_n = 5 \cdot 2^n - 4 \cdot 3^{n-1} - 6$$

別解 $z_{n+1} = 3z_n - 5 \cdot 2^n + 12$ より $\frac{z_{n+1}}{3^{n+1}} - \frac{z_n}{3^n} = -\frac{5}{3} \left(\frac{2}{3}\right)^n + 4 \left(\frac{1}{3}\right)^n$

したがって, $n > 1$ のとき

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^{n-1} \left(\frac{z_{k+1}}{3^{k+1}} - \frac{z_k}{3^k} \right) &= \sum_{k=1}^{n-1} \left\{ -\frac{5}{3} \left(\frac{2}{3}\right)^k + 4 \left(\frac{1}{3}\right)^k \right\} \\ \frac{z_n}{3^n} - \frac{z_1}{3} &= 5 \left(\frac{2}{3}\right)^n - 6 \left(\frac{1}{3}\right)^n - \frac{4}{3} \\ z_n &= 5 \cdot 2^n - 4 \cdot 3^{n-1} - 6 \end{aligned}$$

$n = 1$ のときも, 上式は成り立つ. よって $z_n = 5 \cdot 2^n - 4 \cdot 3^{n-1} - 6$

$$\boxed{9} \quad (1) \quad y = x^2 \text{ より } \frac{dy}{dt} = \frac{dy}{dx} \cdot \frac{dx}{dt} = 2x \frac{dx}{dt} \quad \dots \textcircled{1}$$

$$|\vec{v}| = C \text{ より } |\vec{v}|^2 = \left(\frac{dx}{dt}\right)^2 + \left(\frac{dy}{dt}\right)^2 = C^2 \quad \dots \textcircled{2}$$

① を ② に代入すると

$$\left(\frac{dx}{dt}\right)^2 + \left(2x \frac{dx}{dt}\right)^2 = C^2 \quad \text{ゆえに} \quad (1 + 4x^2) \left(\frac{dx}{dt}\right)^2 = C^2$$

$$\frac{dx}{dt} > 0 \text{ であるから } \frac{dx}{dt} = \frac{C}{\sqrt{1 + 4x^2}} \quad \dots \textcircled{3}$$

$$\textcircled{1}, \textcircled{3} \text{ から } \vec{v} = \left(\frac{dx}{dt}, \frac{dy}{dt}\right) = \frac{dx}{dt}(1, 2x) = \frac{C}{\sqrt{1 + 4x^2}}(1, 2x)$$

(2) (1) の結果から

$$\begin{aligned} \frac{d^2x}{dt^2} &= \frac{d}{dt} \left(\frac{dx}{dt}\right) = \frac{d}{dt} \left(\frac{C}{\sqrt{1 + 4x^2}}\right) \\ &= \frac{d}{dx} \left(\frac{C}{\sqrt{1 + 4x^2}}\right) \cdot \frac{dx}{dt} \\ &= \frac{-4Cx}{(1 + 4x^2)^{\frac{3}{2}}} \cdot \frac{C}{\sqrt{1 + 4x^2}} = \frac{-4C^2x}{(1 + 4x^2)^2} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \frac{d^2y}{dt^2} &= \frac{d}{dt} \left(\frac{dy}{dt}\right) = \frac{d}{dt} \left(2x \frac{dx}{dt}\right) \\ &= 2 \frac{dx}{dt} \cdot \frac{dx}{dt} + 2x \frac{d^2x}{dt^2} \\ &= 2 \left(\frac{C}{\sqrt{1 + 4x^2}}\right)^2 + 2x \cdot \frac{-4C^2x}{(1 + 4x^2)^2} = \frac{2C^2}{(1 + 4x^2)^2} \end{aligned}$$

$$\text{よって } \vec{\alpha} = \left(\frac{d^2x}{dt^2}, \frac{d^2y}{dt^2}\right) = \frac{2C^2}{(1 + 4x^2)^2}(-2x, 1)$$

解説 関数 $y = f(x)$ について, $y' = \frac{dy}{dx}$, $y'' = \frac{d^2y}{dx^2}$ とおくと

$$\frac{dy}{dt} = \frac{dy}{dx} \cdot \frac{dx}{dt} = y' \frac{dx}{dt}$$

$$\left(\frac{dx}{dt}\right)^2 + \left(\frac{dy}{dt}\right)^2 = C^2 \text{ より } (1 + y'^2) \left(\frac{dx}{dt}\right)^2 = C^2$$

$$\frac{dx}{dt} > 0 \text{ であるから } \frac{dx}{dt} = \frac{C}{\sqrt{1 + y'^2}}$$

$$\text{ゆえに } \vec{v} = \left(\frac{dx}{dt}, \frac{dy}{dt}\right) = \frac{dx}{dt}(1, y') = \frac{C}{\sqrt{1 + y'^2}}(1, y')$$

$$\begin{aligned} \frac{d^2x}{dt^2} &= \frac{d}{dt} \left(\frac{dx}{dt}\right) = \frac{d}{dt} \left(\frac{C}{\sqrt{1 + y'^2}}\right) \\ &= \frac{d}{dx} \left(\frac{C}{\sqrt{1 + y'^2}}\right) \cdot \frac{dx}{dt} \\ &= \frac{-C y' y''}{(1 + y'^2)^{\frac{3}{2}}} \cdot \frac{C}{\sqrt{1 + y'^2}} = \frac{-C^2 y' y''}{(1 + y'^2)^2} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \frac{d^2y}{dt^2} &= \frac{d}{dt} \left(\frac{dy}{dt}\right) = \frac{d}{dt} \left(y' \frac{dx}{dt}\right) \\ &= y'' \frac{dx}{dt} \cdot \frac{dx}{dt} + y' \frac{d^2x}{dt^2} \\ &= y'' \left(\frac{C}{\sqrt{1 + y'^2}}\right)^2 + y' \cdot \frac{-C^2 y' y''}{(1 + y'^2)^2} = \frac{C^2 y''}{(1 + y'^2)^2} \end{aligned}$$

$$\text{よって } \vec{\alpha} = \left(\frac{d^2x}{dt^2}, \frac{d^2y}{dt^2}\right) = \frac{C^2 y''}{(1 + y'^2)^2}(-y', 1)$$

したがって, 一定の速度で曲線 $y = f(x)$ 上を運動する動点の速度ベクトル \vec{v} と加速度ベクトル $\vec{\alpha}$ は垂直である.

また, 時刻 t を変数とする動点 $(x(t), y(t))$ の速度ベクトル \vec{v} の大きさが一定であるとき

$$|\vec{v}|^2 = \left(\frac{dx}{dt}\right)^2 + \left(\frac{dy}{dt}\right)^2$$

は定数であるから, これを t で微分すると

$$2 \frac{dx}{dt} \frac{d^2x}{dt^2} + 2 \frac{dy}{dt} \frac{d^2y}{dt^2} = 0 \quad \text{すなわち} \quad \left(\frac{dx}{dt}, \frac{dy}{dt}\right) \cdot \left(\frac{d^2x}{dt^2}, \frac{d^2y}{dt^2}\right) = 0$$

よって, 速度ベクトル \vec{v} と加速度ベクトル $\vec{\alpha} = \left(\frac{d^2x}{dt^2}, \frac{d^2y}{dt^2}\right)$ は垂直である.

(3) 円周上の点 $Q(x, y)$ を $x = r \cos \theta$, $y = r + r \sin \theta$ とおくと

$$\frac{dx}{dt} = -r \sin \theta \frac{d\theta}{dt} \quad \frac{dy}{dt} = r \cos \theta \frac{d\theta}{dt} \quad \dots (*)$$

$|\vec{v}| = C$ より , $|\vec{v}|^2 = \left(\frac{dx}{dt}\right)^2 + \left(\frac{dy}{dt}\right)^2 = C^2$ であるから

$$\left(-r \sin \theta \frac{d\theta}{dt}\right)^2 + \left(r \cos \theta \frac{d\theta}{dt}\right)^2 = C^2 \quad \text{ゆえに} \quad \left(\frac{d\theta}{dt}\right)^2 = \frac{C^2}{r^2}$$

上の結果に注意して (*) を t で微分すると

$$\begin{aligned} \frac{d^2x}{dt^2} &= -r \cos \theta \left(\frac{d\theta}{dt}\right)^2 & \frac{d^2y}{dt^2} &= -r \sin \theta \left(\frac{d\theta}{dt}\right)^2 \\ &= -\frac{C^2}{r} \cos \theta & &= -\frac{C^2}{r} \sin \theta \end{aligned}$$

ゆえに $\vec{\alpha} = \left(\frac{d^2x}{dt^2}, \frac{d^2y}{dt^2}\right) = \frac{C^2}{r}(-\cos \theta, -\sin \theta)$ よって $|\vec{\alpha}| = \frac{C^2}{r}$

(4) (2) の結果から , 原点における P の加速度は $\vec{\alpha} = (0, 2C^2)$

この点における P の加速度の大きさは $|\vec{\alpha}| = 2C^2$

これと (3) で求めた加速度の大きさが等しいので

$$\frac{C^2}{r} = 2C^2 \quad \text{よって} \quad r = \frac{1}{2}$$

解説 (4) で求めた円の半径は , 放物線 $y = x^2$ の原点における曲率円 (接触円) の半径である . 九大 2009 年一般前期理系数学 [3] , [5] の解説を参照¹

¹http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai_ri_2009.pdf